

地域の特性を活かした産地づくり

ねらい

吉野川中流域の肥沃な土壌や比較的温暖な気候を活かし、レタス、なす、ブロッコリー、いちごなどの園芸作物を中心に多様な農業が営まれている。農業従事者については、基幹的農業従事者の高齢化が進んでいる。さらに、異常気象、資材高騰の影響を受けて経営状況は厳しい状況にある。このような中、適切な病害虫対策、農作物の生理生態に応じた栽培管理の徹底、データに基づいた栽培管理技術の導入、緑肥作物の導入や堆肥の施用などエコ栽培技術を中心として持続可能な栽培方法の導入を更に進め、高品質安定生産を図るとともに、新規栽培者、規模拡大の取組を支援し競争力の高い産地と担い手育成に取り組んでいく。

活動地域・対象

吉野川市、阿波市

普及活動の目標

<ブロッコリー>

ブロッコリー出荷量の5%増、規模拡大農家4戸、スマート技術実証農家戸数5戸

低コスト栽培技術実証戸数3戸

<レタス>

レタス栽培の担い手育成農家3戸、規模拡大農家3戸、低コスト栽培技術の普及30ha

レタス疫病の防除対策の確立

<なす>

・促成なす：環境モニターの導入生産者50% ツヤ無し果の発生が減少した生産者50%

・夏秋なす：収量が増加した生産者50%

<いちご>

データ解析実施者 80%、葉柄チッ素計測および花芽検鏡実施者85%

目標に向けた活動概要

1 ブロッコリー

(1) 生産維持向上の支援

① 黒すす、根こぶ病防除対策

- ・ 蛎殻石灰資材を用いて土壌pH上昇による根こぶ病抑制効果を実証した。
- ・ 資源環境研究課と連携して黒すす病菌の薬剤感受性検定結果に基づく防除体系を構築した。

② 規模拡大農家の支援

アンケート調査により新規就農者の規模拡大の意向を確認した。

③ スマート技術導入支援

ドローン防除展示圃を設置し、現地での適性を検証した。

(2) 持続可能な栽培拡大の支援

① 低コスト栽培体系の普及

- ・ 資源環境研究課や阿波市みどりの食料システム協議会と連携して、ソルガム緑肥や、有機質肥料の実証展示により低コスト栽培体系の推進を図った。



根こぶ病発病度調査



ドローン防除実証展示

2 レタス

(1) 新規栽培農家の育成

① 栽培計画の拡大支援

- ・ 阿波市柿島地区では、生産者による自主的なレタス栽培の勉強会を月1回開催した。勉強会の中で、新規栽培農家に対して栽培計画及び栽培技術の支援を行った。

(2) 規模拡大農家の育成

① 規模拡大計画の実証

- ・ 労働力確保に関するアンケートを実施し、規模拡大に向けた課題を抽出するとともに、機械及び施設の整備状況の把握を行った。
- ・ 労働力確保に向けて、求人アプリの紹介を行った。
- ・ 規模拡大に向けて、香川県及び兵庫県の農業法人の視察を行った。

(3) 持続可能な栽培技術の普及

① 低コスト栽培技術の普及

- ・ 減肥肥料の展示ほを設置し、効果を検討した。ソルガム緑肥や有機質肥料の推進を図った。

② 疫病の防除対策の検討

- ・ 防除対策については、資源環境研究課と連携し、農薬試験ほを設置し検討した。
- ・ 持続可能な栽培技術として、レタス育苗時及び定植時の暑熱対策の実証を行った。



暑熱対策実証



求人アプリの紹介

3 なす

(1) 単為結果なすの品質向上

促成なすの省力と品質の向上をめざし、定期的な巡回指導や環境モニターの普及を図り生産技術の安定を目指すとともに、ツヤ無し果の発生抑制のため新たな単為結果性品種の導入の促進を図った。

(2) 新規就農者の収量向上

アンケートを実施したほか、定期的な巡回指導や講習会の開催によって生産レベルの向上を図り収入増を目指した。



単為結果なす生育調査

4 いちご

- (1) 生理生態の理解度向上
巡回により、栽培上の課題を日々把握し、生産者にフィードバックした。また、栽培に関してアンケートを実施し、栽培講習会のニーズを把握するとともに、今後のハウス内設備導入の予定について調査した。
- (2) 葉柄チッ素測定および花芽検鏡
近年の温暖化傾向により、9月の花芽分化期の高温が問題となっており、花芽検鏡をせずに定植するリスクが高まっている。そのため、栽培講習会で硝酸態窒素の測定と花芽検鏡の重要性について説明した上で、希望者に対して支援を行った。



定植前花芽検鏡

普及活動の成果

1 フロッコリー

(1) 根こぶ病対策

蛎殻石灰資材と消石灰を組み合わせることで、土壌pHを7.5以上に維持することによりある程度の根こぶ病抑制効果が確認できた。ただし、完全に発病を抑制するためには土壌pHを8以上に保持しないといけないため資材の施用量や処理方法については改善を要する。

(2) 低コスト栽培体系の普及

年内どり作型においてはソルガム緑肥を利用することにより、肥料成分の流亡が抑制され、化成肥料の減肥料栽培が可能となった。また、有機質肥料を活用することにより化成肥料を削減し、コスト低減に有効であった。

2 レタス

(1) 新規栽培農家の育成

柿島レタス勉強会及び個別巡回により、新規栽培農家の栽培計画の作成及び栽培技術の支援を行うことができた。また、アンケート調査を実施することにより、新規就農者のニーズに応じた普及活動を行うことができた。

(2) 規模拡大農家の育成

アンケート調査の結果、規模拡大には、労働力の確保と機械・施設の整備が不可欠であることが分かった。特に労働力の確保が切実な問題であることから、求人アプリの活用による労働力の確保と出荷支援サービスの充実・活用につなげていく。

(3) 持続可能な栽培技術の普及

レタス疫病に対して有効な薬剤（べと病登録薬剤）を選定することができた。また、耐病性の品種間差異を検討したところ年内どり作型、厳寒期どり作型ともに品種間で大きな差は認められなかった。薬剤防除適期についても検討したが、判然とした結果が得られなかったため、現在、継続検討している。

育苗時の暑熱対策としては、育苗ハウスの遮熱シート被覆が有効であった。また、白黒トレイ、白トレイ、ケイカル資材の投与が苗の生育に効果があった。本圃では、白黒マルチ、紙マルチに地温低下効果が認められた。

3 なす

(1) 単為結果なすの品質向上

促成なすでは環境モニターの導入はできなかったものの、夏秋なすでは5か所に環境モニターを導入できた。ツヤ無し果対策として新たな単為結果性品種（TNA-198）が一部導入され、現在成育特性を調査中である。

(2) 新規就農者の収量向上

アンケートを実施することで新規就農者のニーズを把握し必要な普及活動に生かし、定期的な巡回指導や講習会の開催によって生産レベルの向上とともに収入増が図られた。

4 いちご

(1) 生理生態の理解度向上

アンケートの結果に基づいた支援を行い、生産者の栽培技術が向上した。また、簡易的な環境測定装置のデータや販売データを解析することで、次作以降の栽培計画に活かした。

(2) 葉柄チッ素測定および花芽検鏡

窒素測定や花芽検鏡で、定植まで継続的な支援を行ったことで、出荷に大幅な遅れが出ることなく、安定した出荷ができています。

用語 単為結果性：受粉や植物ホルモン処理しなくても着果する性質。省力化につながる。

説明 花芽検鏡：苗の生長点で花芽分化しているかどうか実体顕微鏡下で確認する。

今後の発展方向

異常気象により、夏期の高温・乾燥・集中豪雨・病害虫被害の増大等により従来に比べ、栽培が難しくなっている。これらの対策を推進することにより、生産の安定を図り、持続可能な産地の推進をする。また、省力化や、経営能力の向上により、新規就農者等の担い手を確保する。

関係者からの声

ソルガム緑肥を活用することにより肥料代削減とともに夏期の雑草抑制もできて助かった。（フロッコリー生産者）

夏期の異常高温により定植時期を後ろにずらしたが、その分減収になってしまう。早期の高温対策の確立が望まれる（レタス生産者）

新品種は作って見なくてはわからないことが多いため、他に調査等の情報共有はありがたい。今後ともご指導よろしく。（促成なす生産者）

昨年度は花芽検鏡を行わずに定植した結果、収穫が大きく遅れ、苦労したが、今年度はしっかり検鏡後に定植したため、安心できた。（いちご生産者）

吉野川農業支援センター

連絡先：徳島県吉野川市川島町宮島736-1 tel: 0883-26-3971